

精華町 地震ハザードマップ

Seika Town Earthquake Hazard Map



いざという時、備えて安心。ご家庭でも災害対策。

地震ハザードマップは、地域への影響の大きな地震を想定し、震度を予測して避難所の情報などと合わせてマップに示したものです。

このマップを利用して、日頃の防災対策や地震発生後の避難などに役立てましょう。

お問い合わせ

精華町役場 総務部 総務課

電話：0774-95-1910

発行日：平成23年3月

■周辺の地震 ～大地震はいつどこで起きてもおかしくありません～

近年、各地で洪水や地震などの自然災害が多発しています。京都府やその周辺には、大きな活断層があり、また、東南海・南海地震の発生も懸念されることから、今後、大きな災害が起きる可能性があります。

阪神・淡路大震災では、亡くなられた方の約9割が、住宅の倒壊や家具の下敷きなどによる圧迫死や窒息死であったとされています。住まいの耐震化など、身近な地震対策が重要です。

■京都府周辺の主な活断層

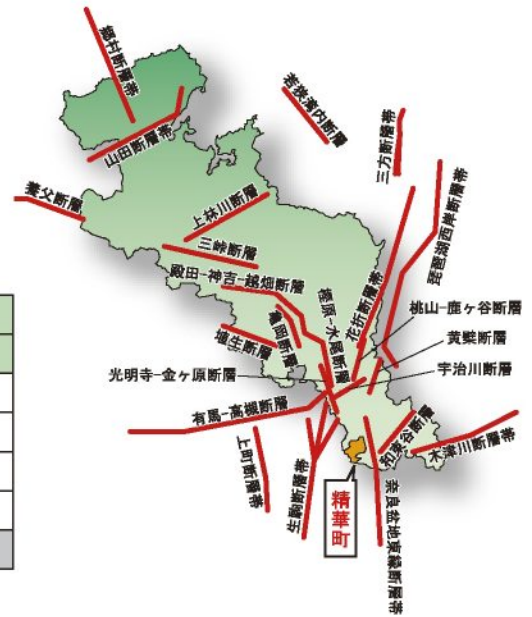
京都府が実施した「京都府地震被害想定調査」によると、京都府周辺には22の断層があります。

これらのうち、精華町域に大きな被害を及ぼすと考えられるのは、下表の断層で、これらを震源とする地震が発生した場合、町内で震度5強～6強の地震動が発生すると想定されています。

表 精華町内で大きな揺れが想定される断層

断層帯名	町内の予測震度	地震発生確率		
		30年以内	50年以内	100年以内
生駒断層帯	6強	ほぼ0～0.1%	ほぼ0～0.3%	ほぼ0～0.6%
奈良盆地東縁断層帯	6弱～6強	ほぼ0～5%	ほぼ0～7%	ほぼ0～10%
有馬-高槻断層	5強～6強	ほぼ0～0.03%	ほぼ0～0.06%	ほぼ0～0.3%
木津川断層帯	6弱～6強	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%
和東谷断層	5強～6強	未発表	—	—

出典：京都府地震被害想定調査結果（平成20年）
地震調査研究推進本部の公表値（平成23年1月11日）



■震度と想定される被害 ～震度による人や建物、家具などへの影響～

震度	被害
0	人は揺れを感じない。
1	屋内で静かにしている人の中には、揺れをわずかに感じる人がいる。
2	屋内で静かにしている人の大半が、揺れを感じる。
3	屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。
4	ほとんどの人が驚く。電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。座りの悪い置物が、倒れることがある。
5弱	大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。棚にある食器類や本が落ちることがある。固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。
5強	物につかまらなると歩くことが難しい。棚にある食器類や本で落ちるものが多くなる。固定していない家具が倒れることがある。補強されていないブロック塀が崩れることがある。
6弱	立っていることが困難になる。固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。 過去の例)駿河湾地震:平成21年8月11日発生、死者1人、負傷者319人
6強	はわないと動くことができない。飛ばされることもある。固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる。耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが多くなる。大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。 過去の例)新潟県中越沖地震:平成19年7月16日発生、死者15人、負傷者2,346人
7	耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものがさらに多くなる。耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。耐震性の低い鉄筋コンクリート造りの建物では、倒れるものが多くなる。 過去の例)兵庫県南部地震(阪神淡路大震災):平成7年1月17日、死者6,434人、行方不明者3人

出典：気象庁

■地震発生時の行動 ～身の安全を確保し、落ち着いて避難しましょう～

■時間経過別行動マニュアル

		<ul style="list-style-type: none"> ● 落ち着いて自分の身を守る 机の下などへもぐる。倒れている家具や落下物に注意。 ● 火の始末をすばやく コンロの火を消し、ガスの元栓を閉める。 ● ドアや窓を開けて、逃げ道を確保する 	
		<ul style="list-style-type: none"> ● 火元の確認・初期消火 ● 非常持ち出し品を用意する ● 家族の安全を確認 ● がけ崩れの危険が予想される地域はすぐ避難 ● 靴を履く ガラスの破片などから足を守る。 	
避難準備	3分	<ul style="list-style-type: none"> ● 隣近所の安全を確認 火が出ていたら大声で知らせ、協力して消火する。 ● 余震に注意 大きな地震の後には余震が発生するので注意。 	
	5分	<ul style="list-style-type: none"> ● ラジオなどで情報を確認 間違った情報に惑わされないように。 ● 電話はなるべく使わない ● 家屋倒壊などのおそれがあれば避難する ブロック塀やガラスに注意。 車はなるべく使用しない。 	
	5～10分	<ul style="list-style-type: none"> ● 出火防止を ガスの元栓を閉め、電気のブレーカーを切る。 ● 自宅を離れるときはメモを残す 	
避難開始	10分～ 数時間	<ul style="list-style-type: none"> ● 消火・救出活動 隣近所で協力して、消火や救出を。 自分たちで手に負えない場合は、消防署などへ通報する。 	
	～3日くらい	<ul style="list-style-type: none"> ● 生活必需品は備蓄でまかなう 災害発生から3日間は、外からの応援は期待できない。 ● 災害情報、被害情報の収集 役場などからの広報に注意する。 ● 壊れた家には入らないこと 	
	避難生活 では	<ul style="list-style-type: none"> ● 自主防災組織を中心に行動を ● 集団生活のルールを守る ● 助け合いの心を 	

【重要】

「緊急地震速報」を見聞きした際、あわてず適切な行動ができるよう事前に訓練しておきましょう。



◆緊急地震速報について◆

「緊急地震速報」は、震源近くで地震をキャッチし、震源の位置、規模、想定される揺れの強さを、地震による強い揺れが始まる数秒～数十秒前に、テレビやラジオなどで素早くお知らせするものです。

※震源に近い地域では、「緊急地震速報」が強いゆれに間に合わないことがあります。

■地震による火災を防ぐために

火災が発生した場合は消火器などを使い、初期消火に努めましょう。まず周囲に「早く知らせ」、小さい火事のうちに「早く消し」、天井まで燃え広がったら「早く逃げましょう」。防災訓練などでは、消火器の使い方を練習しておきましょう。



■消火器がない場合の火元別初期消火方法

油なべ	石油ストーブ	衣類
<p>水をかけてはいけません。毛布や大き目のタオルをぬらして、火の手前からなべ全体にかぶせ、空気を遮断します。</p> 	<p>上から一気に水をかけます。灯油がこぼれていたなら毛布で覆ってから水をかけます。</p> 	<p>転げまわって火を消します。髪の毛の場合は頭からタオルなどの布をかぶります。</p> 
電気製品	カーテン・ふすま	風呂場（ガス式）
<p>感電しないようにコンセントを抜いてから消火します。</p> 	<p>天井に火が燃え広がる前に、水や消火器で消します。カーテンは引きちぎり、ふすまは倒して消火します。</p> 	<p>ガスの元栓を閉め、火の勢いが強くならないように扉を徐々に開けて消火します。</p> 

■応急手当の方法

地震時に多数の人がけがをした場合には、救急隊による救護が望めない場合が考えられます。そのような事態に備え、適切な応急手当の方法を身につけておきましょう。

出血したとき

- ・傷口にガーゼや布を直接当てて、強く圧迫します。
- ・手足は心臓より高い位置に上げると血が止まりやすくなります。
- ・止血ができない場合は、傷口から心臓に近いところを、包帯などで固く結び圧迫します。



骨折したとき

- ・動かさないようにし、傷があれば止血・消毒をします。
- ・添え木は身近なもので代用し、骨折部分の上下の関節を2箇所以上結んで固定します。



やけどしたとき

- ・やけどをしたところはすばやく水で冷やします。痛みや熱を感じなくなるまで十分冷やします。
- ・服を着ている場合には、そのまま服の上から水をかけて冷やします。
- ・広い範囲にやけどをした場合には、ホースやバケツなどで水をかけるか、水槽の水につけて冷やします。



■安否情報の確認 ～災害用伝言ダイヤル・災害用伝言板の使い方～

◆災害用伝言ダイヤルの使用方法

【災害用伝言ダイヤル171】災害時のみ利用できるNTTのサービスです。

※サービス開始は、テレビ・ラジオ等で通知されます。毎月1日及び15日、正月三が日、防災週間(8/30～9/5)、防災とボランティア週間(1/15～1/21)は体験利用ができます。

伝言の録音

171→1→被災した-家-の-電話-番号→伝言を入れる(30秒以内)

ガイダンス(説明)がながれます。被災者は自宅の電話番号を、被災地以外の方は被災地の電話番号を市外局番からプッシュする。

伝言の再生

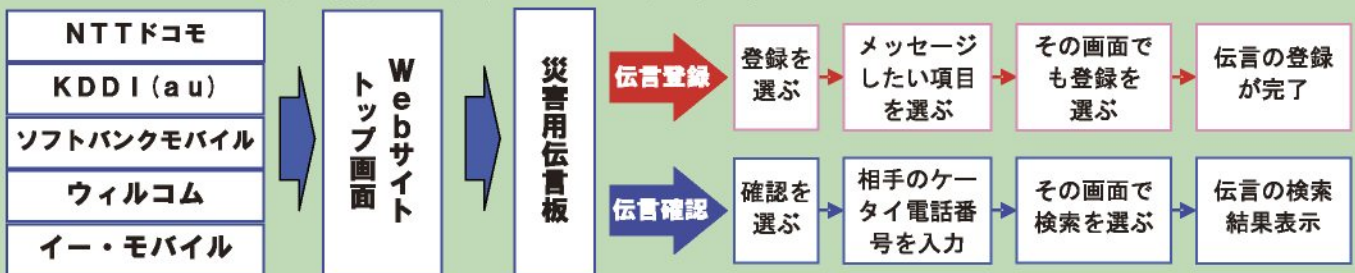
171→2→被災した-家-の-電話-番号→伝言を聞く

ガイダンス(説明)がながれます。被災者は自宅の電話番号を、被災地以外の方は被災地の電話番号を市外局番からプッシュする。

※災害後、緊急でない電話はなるべく控えましょう！

◆ケータイ「災害用伝言板」の利用方法

「災害用伝言板」は、大規模な災害が発生した場合に、ケータイのネット上に開設されます。各ケータイ上のWebサイトトップ画面からアクセスしてください。



◆京都府防災・防犯情報メール配信

京都府や市町村から、気象情報や防災情報を携帯電話へのメールでお知らせします。

○登録方法

anzen@k-anshin.pref.kyoto.jp

まで、携帯電話で空メールを送信してください。返信されたメールの中に記載されているURLへアクセスし、登録してください。



ラジオ周波数

停電時の情報はラジオから

局名	周波数
NHK第1	621 KHz
NHK第2	828 KHz
KBS京都	1143 KHz
NHK FM	82.8 MHz
FM京都	89.4 MHz

■緊急時の連絡先 ～いざ、というときの連絡先～

あわてず落ち着いて！

火事・救助・救急は **119** 番

住所.....

氏名.....

目印は.....

電話番号.....

連絡先	電話番号	連絡先	電話番号
精華町役場	0774-94-2004	精華町上下水道事務所(上下水道部)	0774-94-2049
警察	110	木津警察署	0774-72-0110
火事・救助・救急車	119	精華町消防本部	0774-94-5119
関西電力 伏見営業所	075-611-2131 (休日・夜間)050-7106-1181	災害用伝言ダイヤル	171

■災害時要援護者への支援 ～地域が一丸となって助け合いましょう～

高齢者や乳幼児、または障がいのある方など、災害時にさまざまな助けを必要とする人たちが、たくさんいます。地域が一丸となって、これらの人たちを守るための助け合いをこころがけましょう。

○高齢者や寝たきりの方を支援する場合には

- ・緊急時は背負って安全な場所に移動しましょう。
- ・不安にさせないように声をかけましょう。

○耳が不自由な方を支援する場合には

- ・話すときは口を大きく動かしましょう。
- ・手話、筆談、身振りなども使って、正確な情報を伝えましょう。

○目が不自由な方を支援する場合には

- ・災害時には声をかけて情報をしっかりと伝えましょう。
- ・杖を持っていない手のひじのあたりを軽く持って、避難を誘導しましょう。

○車イス利用の方を支援する場合には

- ・階段を移動する場合は、必ず3人以上で車イスを持ち上げて移動しましょう。
- ・手助けする人が1人しかいない場合は、ひもなどを使って背負って避難しましょう。



■自主防災組織(自主防災会)への参加

大規模な災害が発生したとき、交通網の寸断、同時に発生する火災などにより、町・警察署・消防署等の公共機関が十分に対応できない可能性があります。そんなときに力を発揮するのが、「地域ぐるみの防災活動」「自主防災組織(自主防災会)」です。

阪神・淡路大震災では、約85%を一般住民が、約5%を消防団が救出したとの推計があります。「自分の命は自分で守る(自助)」や、「隣近所、地域社会の人とのつながりの大切さ(共助)」など、日頃はなかなか意識しないことが、もっとも重要な防災対策であるといえます。

いざというときに備えて、日頃から「自分たちの地域は自分たちで守ろう」という意識のもと、自治会活動の一環として自主防災組織に参加しましょう。

揃えておきたい 救出必須7つ道具

40センチの隙間を確保することでがれきや柱などの下じきになった人を救うことができます。2時間以上、下じきの状態であると後遺症の残る可能性があります。なにより素早い救出が望まれます。

阪神・淡路大震災で救出された人の生存率は、地震当日は約75%、2日目は約25%、3日目は約15%と日を追って減少しています。



脚立



ロープ



のこぎり



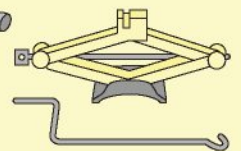
バール



シャベル



ツルハシ

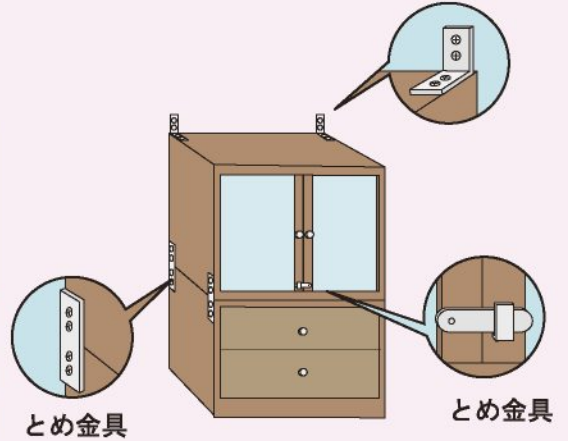
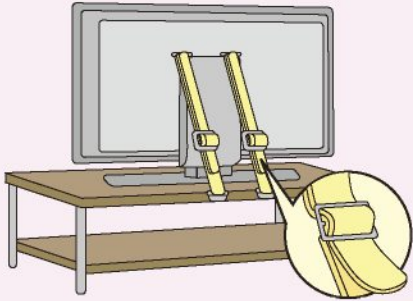


ジャッキ

■被害を防ぐポイント ～家の中や周囲の安全対策を心がけましょう～

◆家の中の安全確認

- 戸建住宅などの場合は、できるだけ2階で寝るようにしましょう。
- 棚やタンスなどの家具には、とめ金具を取り付けましょう。
- 部屋の入り口付近には物を置かないようにしましょう。
- テレビや置物などは固定しましょう。



◆家の周囲の安全確認

ベランダ

植木鉢などを整理整頓しましょう。

ブロック塀

ブロック塀はしっかり点検補強しましょう。



屋根

不安定な屋根のアンテナや屋根瓦を補強しましょう。

窓ガラス

飛散防止フィルムを貼りましょう。

プロパンガス

ボンベをしっかりと鎖で固定しましょう。

◆ブロック塀の安全対策

鉄筋: 縦筋と横筋が固定されて入っているか

直径 9mm 以上の鉄筋を縦横方向に 80cm 以下の間隔で入れます。特に縦筋は基礎から壁頂まで 1 本のものに。

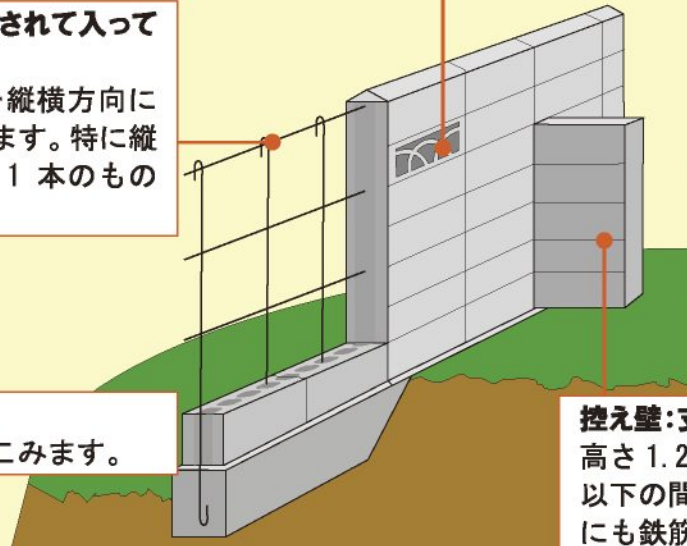
透かしブロック: 多くないか
多いと壁の強度が低下。
連続した配置は禁物。

破損: 傾きやひび割れ、
破損箇所はないか

高さ: 高すぎないか
高さは 2.2m を超えない
ようにします。

基礎: しっかりしているか

30cm 以上、地盤に埋めこみます。



控え壁: 支えの控え壁はあるか

高さ 1.2m を超える塀は、長さ 3.4m 以下の間隔で控え壁を設置。控え壁にも鉄筋を入れ、塀とつながります。

